

萩博物館（平成30年度萩博物館夏期特別展実行委員会）

夏期特別展「深海魚大行進」 powered by 東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム

開催期間：平成30年6月23日（土）～平成30年9月2日（日）



## 【企画展の内容・目的】

- 「深海魚」を魅力的に展示を行うことで、海洋生物の多様性や生態系の複雑さを知ってもらおうと共に、人間活動が深海にも影響を与えていることも実例をもって紹介し、海の環境保全に対する認識を高める。また、萩がリュウグウノツカイなどの深海魚がしばしば漂着する全国有数の地であることを標本や剥製を通じて実感してもらおうことで、地域住民に郷土の海への関心と愛着を高めてもらう。
- 展示だけでも深海の仕組みや生態系について学べるよう構成したが、さらにプロの研究者や館員と交流することのできるトークショーやワークショップを行うことで展示に関わる発展的情報を補いつつ、海の探究を将来の夢にしたいと願う子ども達や保護者へ自主学習や進路をアドバイスする。
- 上記のほか、ナイトミュージアムや列車ツアーも行うことで、歴史の町・萩において海を新たな観光要素として利活用する道を拓く。

# 1. 企画展示の内容

■開催期間：平成30年6月23日（土）～平成30年9月2日（日）

■開催場所：萩博物館 企画展示室

■入場者数：51,306人



萩博物館 外観



企画展会場 入口



様々な深海魚標本を観察する来場者①



様々な深海魚標本を観察する来場者②

東京海洋大学マリンサイエンスミュージアムから借用した世界各地の約3,000点の深海魚標本と、萩博物館およびその前身となる施設に所蔵されてきた地元近海産の標本をあわせ、それらを体形、器官の形態、色、水圧への対応、泳ぎ方、餌のを見つけ方・食べ方など、深海で生きていくでの生活戦略（または深海への適応が現れている形態的特徴）で分類し、各々を個性的な展示什器やケースなどで展示したり、魅力的な照明や演示具を施したりしつつ、『浦島太郎』物語を近未来風にアレンジしたストーリーのもと、ドラマチックに展示。これらにより、深海が地上や浅海とは異なる過酷きわまる世界であること、閑散としているイメージがもたれがちな深海に意外と多くの魚類が生息していることを、傍観者とならず主体的かつ意欲的に、強い興味関心をもって認知・実感してもらった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。





チョウチンアンコウの標本を観察する来場者



ゴミを誤飲したミズウオの標本を観る来場者

展示した数多くの深海魚標本の中でも、チョウチンアンコウやベンテンウオなど奇抜で有名な「キラコンテンツ」的なものについては周辺に十分な閲覧スペースをとって1点のみを展示ケースに入れ、歌手のステージの如くスポット照明を当てて特別感を出すことにより、「海」とはかくも得体の知れないデザインを繰り出す無限の可能性を秘めた空間であることを実感してもらうことができたと思われる。また、海中で出会った生物を見境なく食べる獰猛な深海魚ミズウオの液浸標本については、誤食・誤飲した海中ゴミと共に手術台を模した液浸ケースに収納して厳かに展示した。この展示は、昨今話題になっている海の環境汚染が表層や浅海だけでなく深海にまで及んでいるという意外な事実を来場者に知らせ、人々の海の環境保全に対する認識を強化することに大いに繋がったものと予想される。



会場内の名所「リュウグウノツカイタワー」



タワー周辺で論議を交わす家族

本展最大の「キラコンテンツ」は、「伝説の深海魚」リュウグウノツカイの全長 4.4mの剥製と、3.4m・3.0mのホルマリン液浸標本である。特にホルマリン液浸標本は、全国各地では横長アクリル製水槽に収納して展示することが通常であるところ、本展では初の試みとして、「リュウグウノツカイタワー」と称し、円筒タワー型のアクリル水槽2体を神々しく垂直に展示した。この展示は、来場者が自分の身長と直接比較して魚体の巨大さと迫力を体感できるインパクトある展示となり、約 50 分もこの展示のそばから離れなかった親子がいたほどである。また、自然界では頭を真上に向け垂直に立ち泳ぎするといわれるそのままの姿を知る上でも大いに役立ったと思われる。この展示の手前には、同じく萩近海に頻出し「竜宮の使者」と称されるサケガシラ・アカナマダなどフリソデウオ亜目の魚類の剥製・標本も厳かに展示することにより、萩市民に自分達の故郷が「竜宮の使者」の仲間が頻出する日本屈指の地であることを実感してもらい、郷土の海の魅力を見直す契機になったと思われる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。



エピローグ映像を鑑賞する来場者



会場出口でクイズつきアンケートに回答する来場者

当館が過去 11 年に亘り開催してきた夏期特別展と同様、本展では来場者が臨場感をもって展示の世界に入り込めるよう、前述のように『浦島太郎』物語をアレンジした絵本や映画のようなストーリー仕立てとし、登場人物に扮した学芸職員が出演して来場者を先導したり語りかけたりする映像を配置した。特に会場後半のエピローグ映像では、人間が無意識のうちにゴミを介して深海魚を含む海の生態系にまで影響を及ぼしている事実を直視してもらうことができた。また、来場者から感想や意見をなるべく多く得るため、会場出口には「海の学びミュージアムサポート」所定のアンケート用紙だけでなく、抽選で特製缶バッジが当たる簡易クイズ付きのオリジナルのアンケート用紙も設置した。結果、来場者の回答意欲が著しく増したようで、総来場者の約 3 割にあたる 14,221 人も回答を得ることができ、展示への満足度や印象に残った点、「海の学び」への貢献を深く広くうかがい知ることができた。

### 【来館者の声】

- ミズウオの展示コーナーで胃内容物のゴミの実物を見て、人間は海洋生物が生活環境を奪われないよう環境に対して配慮することが必要と思った。
- 巨大でたいへん見応えのあるリュウグウノツカイの液浸標本が展示されていたのに感動した。また、その状態の良さに思わず鳥肌が立った。
- 幼い頃、父に買ってもらった図鑑にリュウグウノツカイが載っていた。こんなきれいな魚が深海にいるというのが不思議で、いつか自分の目で見たいと思っていた。今回たまたま菟博物館で本展があるのを知って来場し、リュウグウノツカイに出会う夢が叶った。
- 図鑑やテレビでしか見たことがなかった深海魚の本物を見ることができ満足。ただ楽しいだけでなく、海のゴミ問題にも触れており、幼い子供なりに感じる場所があったと思う。
- 菟博物館へは毎夏「今回はどんな展示か？」と期待して来館している。小さい博物館ながら工夫して展示しており、職員出演の映像も上達していて楽しく見させてもらっている。



## 2. 関連事業の内容

### ■東京海洋大学 Dr.MOTEKI の深海魚なんでもトークショー

【開催日時】平成30年7月28日（土）

10:30~11:30、13:00~14:00、14:30~15:30、16:00~17:00

【開催場所】萩博物館 講座室・体験学習室

【参加者数】185人

【実施内容・目的】

- 深海魚を取り巻く海の生態系への理解を深めてもらうため、本展の標本の採集・調査に携わった魚類学者を招き、深海魚の体の構造、生活戦略、調査研究の裏話などをクイズを織り交ぜ親子に向けて話していただいた。



会場の萩博物館講座室の入口（受付）



開始前のオリエンテーション



茂木准教授が入場し講演を開始



茂木准教授の講演に聞き入る参加者

本展の観覧だけでも深海の仕組みや生態系について学べるよう構成したが、大多数の展示標本の採集や調査に携わったプロの研究者（東京海洋大学准教授）から直接話を聞くことのできる講演会（トークショー）を開催。この実施により、展示からは見えない深海および「海」の探査に関わることの楽しさ、現実や展望など多岐にわたり認知してもらうことができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



講演中のクイズの正解者へ海にまつわる賞品を贈呈



賞品は茂木准教授手製の深海魚の透明標本

参加者が講演を受動的に聞くだけにならないよう、講師には講演中に3問ほどクイズを織り交ぜていただくよう依頼。クイズに全問正解した参加者には海にまつわる賞品（深海魚の透明標本）をプレゼントした。これにより、参加者の聴講への集中度はかなり高くなった。



終了後、海や魚に関する個別質問をする参加者



質問だけでなく、海に関する進路相談にも対応

講演会の終了後には、熱意のある子どもや保護者が講師や当館の職員やスタッフと直接語らうことのできる時間も設定。小学生が自信が興味のある魚について個別質問をしたり、保護者が子どもを海または海洋生物を専門とする高校や大学に進学させるためにはどうしたらよいかといった質問をしたりし、それに対し懇切丁寧に答えることにより、「海」に関する親子の興味の高まりに対するアフターケアができたものと思われる。

### 【来館者の声】

- 講師による深海魚についての話がとても興味深く、勉強になった。
- 講師が想像以上に気さくな方で、海の研究に関する奥深い話を楽しく聞くことができた。
- 個人的に持参したサメ（カスベ）の卵囊についての質問にも答えてもらえて大満足。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。



## ■東京海洋大学 Dr.MOTEKI と貴重体験！「深海のプレデター解剖 リサーチ」

【開催日時】平成30年8月25日（土）

10:00～11:30、13:00～14:50、15:30～16:45

【開催場所】萩博物館 講座室・体験学習室

【参加者数】56人

【実施内容・目的】

- 深海魚の標本を見るだけでなく、体の質感やしくみ、食物連鎖、環境問題についても興味をもってもらうため、本展に携わった東京海洋大学の魚類学者の指導のもと、親子を対象に、同学調査船が採集した深海魚ミズウオ（冷凍標本）の解剖・観察を行うワークショップを実施。



会場の萩博物館講座室



茂木准教授（右端）によるオリエンテーション



茂木准教授（中央）の説明でミズウオの体を観察



スタッフの補助によりミズウオの解剖を開始

本展を見るだけでなく深海魚の実物を触りたいという声が出るのが想定されたため、展示を1回以上観覧した親子から参加を募り抽選し、プロの研究者（東京海洋大学准教授）の指南のもと、ミズウオの観察・解剖を実施。当館では過去にも数多くのワークショップを行ってきたが、プロ同様の技法で海洋生物に関する実験を行うことは初であり、これまでになく熱意のある親子が参加し、当館として斬新かつインパクトある「海の学び」体験となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



解剖バサミなどプロ用品を使いミズウオの腹を切開



真剣に気づきや観察結果を記録する参加者

解剖・観察においては、補助スタッフをつけて十分安全管理しつつ、プロの研究者が実際に使っている道具や技法をそのまま用いて行ったため海洋生物学研究の「リアル体験」となった。ミズウオの胃からは食べられた生物だけでなくゴミも摘出されたため、人間活動が深海にまで影響を及ぼしていることを驚異をもって直視する貴重な環境学習の機会にもなった。



冷凍のミズウオを流水で解凍するスタッフ



終了後、茂木准教授に個別質問や記念撮影を求める参加者

この行事には講師のほか、萩博物館の職員、さらには補助役として水産関係機関や水産系の大学生も対応したので、終了後にはそれらスタッフと参加者が交流することのできる機会も設定。海のゴミ問題、深海魚の生態や体の構造についての個別質問のほか、海洋生物学を目指す進学相談にも対応したことで、「海」に携わる人材育成にも貢献できたと思われる。

### 【来館者の声】

- 普段スポーツ少年団に没頭して他のことになかなか目が向かない子どもがたいへん興味を示す内容で、よくリサーチに取り組み、よい夏休みの体験・思い出になった。
- ミズウオの解剖を通じて海のゴミ問題についても学ぶことができ新鮮だった。
- 海洋系大学に進学するためにはどうすればよいかも教えてもらうことができ助かった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



## ■観光列車「〇〇のはなし」で行く！

### 深海魚ウォッチングツアーin 萩

【開催日時】平成30年8月8日（水）・8月22日（水）11:00～17:00

【開催場所】山陰本線 萩駅～江崎駅、江崎漁港周辺

【参加者数】102人

【実施内容・目的】

- 「歴史の町」と呼ばれる萩において海を観光素材として利活用しつつ海洋生物を探究してもらうため、過去から取り組んできた「海の学びトレインツアー」等の実績を活かし、貸切列車で海岸風景を楽しみながら漁港へ向かい、定置網に入った深海魚を観察・撮影する親子向けツアーを実施した。



開催場所となった山陰本線沿線と観光列車



集合場所の萩駅での受付とオリエンテーション



萩市のゆるキャラ等に見送られ萩駅を発車



貸切観光列車の車窓から海の絶景を鑑賞し歓喜

萩駅に集合し、萩市のゆるキャラや萩市観光協会スタッフの見送りを受け、貸切観光列車「〇〇のはなし」で山陰本線伝いに江崎駅へ向かった。列車内では車窓の海の風景を鑑賞してもらっただけでなく、海の色による深さや海底環境の違い、沖合に設置された定置網なども説明することで「海」への興味を高めると共に、目的地での深海魚観察への期待を高揚させた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



目的地の江崎漁港で現地オリエンテーション

漁港施設でリュウグウノツカイをタッチ・撮影

江崎駅への到着後は江崎漁港へ移動し、近海に設置された定置網から予め水揚げされ保存されていた深海魚や、萩博物館から持ち込んだ地元産リュウグウノツカイの解凍標本のタッチ・観察体験を行った。この体験は列車での移動とあわせ、「海」に関する素材を使った科学体験ツアーを萩の新たな観光素材として利活用する需用の開拓につながったと思われる。



定置網で採れた浅海魚のタッチ・観察も実施

定置網で採れ冷凍されていた珍魚もタッチ・観察

漁港では深海魚だけでなく、同じ定置網にかかったイサキなどの活魚やアナゴなどの浅海魚もイケスや冷凍で提示した。これらにより、深海魚のタッチ・観察とあわせ、総じて郷土の海辺や漁港が海の様々な要素と遭遇できる「最前線」であり、今後も自発的に海の探究に挑むためのゲートウェイであることを実感してもらう好機になったと思われる。

### 【来館者の声】

- 特別列車で海の美しい絶景をたっぷり楽しみながら旅行できたことで、地元の海の意外な魅力に気づくことができ新鮮だった。
- リュウグウノツカイなど深海魚の本物に触れて観察することができ貴重な体験だった。
- 冷凍の深海魚だけでなく、活きた魚とも触れあい親しむことができ満足した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



## ■深海魚大行進ナイトミュージアム

【開催日時】平成30年7月21日(土)、8月11日(土)、8月18日(土)  
18:00~21:00

【開催場所】萩博物館 展示室

【参加者数】558人

【実施内容・目的】

- 夜独特の神秘性を付加して観覧者を誘うことで本展が目指す「海の学び」を促進すると共に、「暗黒の海」への畏怖や関心を喚起することを目的とし、本展の会場照明を消灯し(一部の照明は夜専用のオリジナル照明に切り替え)各自が懐中電灯で観覧することのできる夜間開館を実施。



開催場所となった夜の萩博物館



萩博物館東門の敷地入口で来場受付



入場待ちする人々へ職員がオリエンテーション



「夏の夜の観光」らしく浴衣姿の人々も来場

観光都市である萩市が進めようとしている「夜の観光」の一環として、夏休み初日と盆前後の計3日、18時~20時に来場受付、21時まで観覧可能な夜間開館を実施。特に盆前には市内外から多数の親子や市内宿泊客、浴衣の女性などが訪れ盛況となった。博物館という施設を介して夏の夜に萩で「海」をテーマとした催事への需要開拓につながったと思われる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

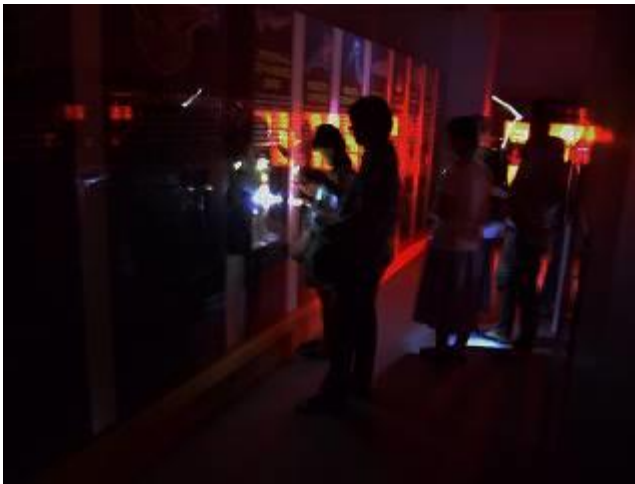


透明骨格標本のみは夜特別のライトアップ



夜の特別ライトアップは時間差で色が変化

会場は基本的に消灯したが、深海魚の透明骨格標本コーナーのみは夜間限定で色が変化するライトアップを施した。これによりグロテスクな深海魚を一転 美しい「海の芸術」の如く見てもらうことができ、多くの親子に海への憧れや神秘を抱かせることができたと思われる。



暗黒の会場内を懐中電灯で巡る来場者



夜独特の雰囲気醸すリュウグウノツカイ剥製

来場者には懐中電灯をもって自由観覧してもらったが、映画『ナイトミュージアム』にも描かれているように昼と全く雰囲気が異なる暗黒の中、剥製や標本が意思をもって動き出すのではないかと思えるほどの独特な神秘性を堪能してもらうことができた。特に目玉展示物のリュウグウノツカイ剥製は本物の暗黒の深海を泳いでいるかのような錯覚を醸成した。総じて、昼間の開館に付加する形で夜にこのような行事を開催したことで、多くの来場者に本物の深海に潜航しているかのような臨場感を感じさせ、海への関心を高揚できたと思われる。

### 【来館者の声】

- 部屋の中にいろいろな「暗さ」が設定してあったので、深海の臨場感を味わえた。
- 暗闇の中でライトを照らして改めて見るリュウグウノツカイの迫力と神秘に感嘆した。
- 透明骨格標本は様々な色でライトアップされ、それらの体内の構造がよく分かった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



## 【事業全体のまとめ】

全国各地で深海に関する展示会がいくつも開催される中、いかに当館がボリュームとクオリティを担保した深海魚展を開催し、地元や県内外の親子を集客し存在意義を発揮できるかが当初からの懸案材料であった。しかし、「海の学びミュージアムサポート事業」（以降「サポート事業」）を活用したことで、東京海洋大学から借用した3千点超の標本を余すことなく各々個性的な技法で丁寧に展示することができた。特に、高さ 3.5m の円筒型液浸標本「リュウグウノツカイタワー」や、ハダカイワシなど発光する深海魚 1,260 点を壁面一面に陳列した展示は、他館にはない独創的かつインパクトある展示となった。付帯事業もスタンダードな講演会から臨場感あられるプロ仕様の解剖実験、夜の博物館や列車を使ったツアーまで多彩なメニューを用意し、来場者の「海」への探究心へ多岐に應えることができた。また、サポート事業を受ける母体として観光・旅館・商業・交通などのエキスパートを招いて当館初の実行委員会を結成したことにより、本展を夏の萩観光の一環と位置付けた多彩な集客戦略を打つことができた。これらが合わさり、萩市の人口5万人を超える親子を始めとする来場者へ、海で最も神秘的な空間ともいえる深海の生命の多様性に興味関心を深めてもらうと共に、人間活動によるゴミが深海にまで影響を及ぼしているという海の問題を直視してもらうことができた。そして何より、リュウグウノツカイ等の深海魚がしばしば出現する萩の海が十分に観光素材として通用すること、また、地元の海辺や港が科学少年少女にとっての探究のゲートウェイとなりうることを実感してもらうことができたと思われる。総じて、地方の小さな博物館である当館が「海の学び」に関する活動を今後自信をもって邁進していくための転機になったと考えられる。

## 3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 東京海洋大学	本展で展示する深海魚標本の貸出、付帯事業への講師派遣、付帯事業のための魚類標本の採集・提供
2. 萩市観光協会	本展開催のための実行委員会への参画、ポスターデザイン検討、萩観光と連動した集客戦略の考案、付帯事業に関する手続きや当日随行
3. 萩温泉旅館協同組合	本展開催のための実行委員会への参画、ポスターデザイン検討、市内旅館・ホテルにおけるポスター・チラシ配布・掲示
4. 西日本旅客鉄道株式会社広島支社やまぐち支店	本展開催のための実行委員会への参画、ポスターデザイン検討、付帯事業の企画協力および随行、県内主要駅でのポスター掲示
5. 全日本空輸山口支店	本展開催のための実行委員会への参画、ポスターデザイン検討、広報集客戦略の検討
6. 山口県漁業協同組合江崎支店	付帯事業における参加者対応・会場提供・魚類の漁獲および保存

#### 4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. yab 山口朝日放送	展示会のテレビCM 65本 6月11日(月)～8月31日(金)
2. KRY 山口放送	展示会のテレビCM 16本 6月14日(木)～8月23日(木)
3. HTV 広島テレビ	展示会のテレビCM 33本 6月11日(月)～8月17日(金)
4. フリーペーパー「ほっぷ山口」山口・小郡版	展示会の情報掲出 8月24日(金)
5. yab 山口朝日放送	「アサデス。九州山口」生中継 6月27日(水)
6. HTV 広島テレビ	「テレビ派」まちかど伝言版 生出演 8月21日(金)
7. KRY 山口放送・yab 山口朝日放送	山口トヨペット「夏のキャンペーン告知」CM 84本 7月2日(月)～7月29日(日)

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はありません。